みずほマーケット・トピック（2022 年 4 月 28 日）

内容　1．為替相場の動向　　2．来週の注目材料
※誠に恐れ入りますが、「3．本日のトピック」はお休みさせて頂きます。

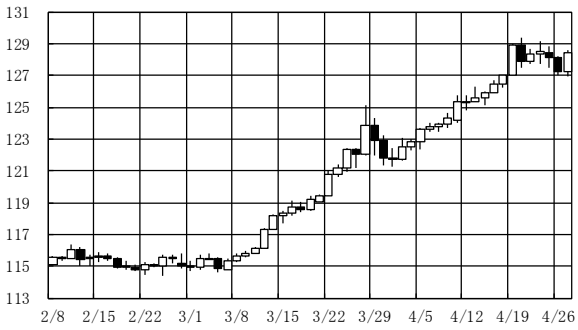
1．為替相場の動向（関連レポート：「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」）

- 今週のドル/円相場は値幅を伴いつつも方向感のない展開。週初25日、128.60円付近でオープンしたドル/円は仲値にかけて一時週高値の128.87円まで上昇したが、中国のコロナウイルス感染拡大による景気減速懸念の高まりからリスク回避の動きが散見、日経平均株価やアジア株の軟調推移を受けてじり安の展開。海外時間でもその流れは継続し、米金利低下も相まって127円半ばまで続落したが、終盤にかけて主要株価の持ち直しに128円台前半まで回復した。26日、ドル/円はアジア時間に上値を伸ばすも、その後はじりじりと下落。海外時間では、ポジション調整の動きも散見され127円ちょうど付近まで急落したが、追加材料に欠く中で127円台前半での揉み合いとなった。27日、ドル/円は株式市場の持ち直しや米長期金利上昇に伴うドル買いが支援材料となり127円台半ばから128.60円までじりじりと上昇した。本日のドル/円は前日の流れが継続し、週高値を更新しながら128円台半ば付近の取引となっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は週後半に大幅続落し、約5年ぶりの安値を付けた。週初25日、1.0810でオープンしたユーロ/ドルはフランス大統領選挙でマクロン大統領の再選を好感しオセアニア時間に週高値の1.0852をつけたが長続きせず、株式市場の軟調推移にじりじりと下落。ウクライナ情勢悪化を受けてリスク回避の動きからユーロを手放す動きが強まって一時、1.07台を割り込み、その後小反発も上値重く推移した。26日、ユーロ/ドルは新規材料難の中、前日からのポジション調整やリスク回避の動きが活発化し、米国時間に1.06台半ば付近まで急落した。27日、ユーロ/ドルは1.06台半ばで揉み合いであったが、米金利上昇に伴うドル買いやロシアがルーブル決済を受け入れない東欧の買い手へのガス供給を停止するという報道に欧州経済の先行き懸念が高まって1.0515まで急落、前日の安値を大幅に更新し約5年ぶりの安値をつけた。本日のユーロ/ドルは引き続き軟調で1.05台半ば付近での取引となっている。

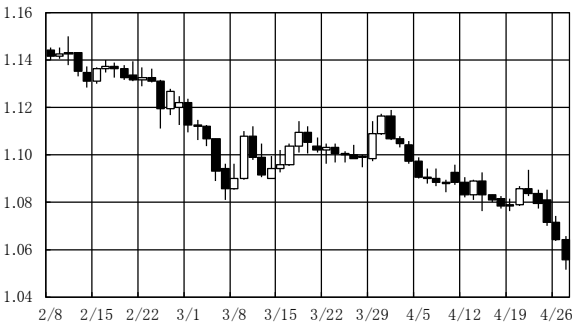
今週のおもな金融市場動向（出所：ブルームバーグ、みずほ銀行）

		前週末	今週		
		4/22(Fri)	4/25(Mon)	4/26(Tue)	4/27(Wed)
ドル/円	東京9:00	128.44	128.62	127.78	127.26
	High	129.11	128.87	128.23	128.60
	Low	127.74	127.53	127.03	126.97
	NY 17:00	128.50	128.13	127.20	128.43
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0833	1.0810	1.0712	1.0643
	High	1.0851	1.0852	1.0738	1.0655
	Low	1.0771	1.0697	1.0636	1.0515
	NY 17:00	1.0810	1.0713	1.0637	1.0560
ユーロ/円	東京9:00	139.18	138.92	136.78	135.57
	High	139.48	139.18	136.50	136.16
	Low	138.33	136.50	135.35	134.79
	NY 17:00	138.87	137.25	135.35	135.62
日経平均株価		27,105.26	26,590.78	26,700.11	26,386.63
TOPIX		1,905.15	1,876.52	1,878.51	1,860.76
NYダウ工業株30種平均		33,811.40	34,049.46	33,240.18	33,301.93
NASDAQ		12,839.29	13,004.85	12,490.74	12,488.93
日本10年債		0.24%	0.24%	0.25%	0.24%
米国10年債		2.90%	2.82%	2.73%	2.83%
原油価格（WTI）		102.07	98.54	101.70	102.02
金（NY）		1,934.30	1,896.00	1,904.10	1,888.70

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

・ 米国では、3 日(火)～4 日(水)に FOMC が開催される。3 月 FOMC では 25bps の利上げに着手、パンデミック時からのゼロ金利は終了となった。議事要旨においても、5 月会合における QT(量的縮小)の開始および 50bps の利上げが事実上宣言されており、正常化プロセスのギアが一段上がるのは既定路線である。市場の注目はもはや 5 月会合での 50bps の利上げを実施することよりも、今後の会合においても 50bps の利上げ継続は可能かといったことに向いている。片や、株式市場では主要指数である NY ダウ平均株価や S&P500 種指数など FRB の金融引き締めを嫌気する格好で下落している。こうした状況が続けば、資産効果の縮小が個人消費の冷え込みに波及して、最終的に米国経済の減速に繋がっていくことも考えられる。FRB が 5 月以降も同じペースで金融引き締めの継続ができるかを判断する1つの目線となるだろう。この他にもゼロコロナを志向する中国経済の冷え込みが懸念される状況となっており、会合後の会見で金融市場全体の動揺に配慮した情報発信が出るかにも注目したい。

・ 欧州では、29 日(金)にユーロ圏 4 月消費者物価指数(HICP)が公表される。前回 3 月の結果は前年比+7.5%と 9 か月連続で上昇し、過去最高を更新した 2 月の同+5.9%も大きく上回る結果となった。内訳をみると、エネルギー価格の騰勢が目立ち、前年比+44.7%と前月の同+32.0%から急加速した。インフレが過去に例を見ないペースで進みその予測も困難となっている中、ECB の政策判断も経済・物価見通しが更新される 6 月会合に先延ばしされた格好となっている。今月の結果を踏まえた ECB 関係者の見解は今後の ECB の動きを展望する材料となりそうだ。また、同日にユーロ圏 1～3 月期 GDP(速報)の発表も予定している。ユーロ圏 10～12 月期の結果は前期比+0.3%となった。オミクロン株拡大の影響で経済活動が制限されてやや弱い結果となったが今回もウクライナ危機の当事者であるユーロ圏の成長率は伸び悩むと予想される。ブルームバーグの事前予想では前期比+0.3%、前年比+5.0%としている。

	本　　邦	海　　外
4 月 29 日(金)	――――――――――	・ユーロ圏 4 月消費者物価指数 (速報) ・ユーロ圏 1～3 月期 GDP (速報) ・米 4 月ミシガン大学消費者マインド (確報)
5 月 2 日(月)	・4 月製造業 PMI (確報)	・ユーロ圏 4 月製造業 PMI (確報) ・米 4 月 ISM 製造業景気指数
3 日(火)	――――――――――	・ユーロ圏 3 月失業率 ・米 FOMC (4 日まで)
4 日(水)	――――――――――	・ユーロ圏 4 月サービス業 PMI (確報) ・ユーロ圏 3 月小売売上高 ・米パウエル FRB 議長会見 ・米 3 月貿易収支 ・米 4 月 ISM 非製造業景気指数
5 日(木)	――――――――――	・英 BOE 金融政策会合
6 日(金)	・4 月東京 CPI	・米 4 月雇用統計

【当面の主要行事日程(2022 年 5 月～)】

FOMC (5 月 3～4 日、6 月 14～15 日、7 月 26～27 日)
ECB 政策理事会 (6 月 9 日、7 月 21 日、9 月 8 日)
日銀金融政策決定会合 (6 月 16～17 日、7 月 20～21 日、9 月 21～22 日)

市場営業部・金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html （Archives） http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年4月27日	ECB、7月利上げ説は本当なのか？
2022年4月25日	円安にまつわるQ&A：よくある疑問の論点整理
2022年4月22日	週末版
2022年4月21日	円の命運はまだ自ら変えられる～需給で円安の修正余地～
2022年4月20日	IMF春季世界経済見通し～戦争が変えるメインシナリオ～
2022年4月19日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2022年3月分）
	表舞台に引きずり出された日銀の現状と展望
2022年4月18日	本当に恐ろしい円安リスクは「家計部門の円売り」
2022年4月15日	週末版（ECB政策理事会を終えて～勝負は6月会合に～）
2022年4月14日	「インフレで苦しむ」を想像できない日本
2022年4月13日	円安を止めるには～日本要因と米国要因～
2022年4月11日	ECB政策理事会プレビュー～レーン理事に同調～
2022年4月8日	週末版（本邦2 月国際収支統計を受けて～円安の流れを変えられるかは日本次第～）
2022年4月7日	FOMC議事要旨～株価に対し非常に厳しい内容～
2022年4月6日	「日本売り」を認められない論陣をどう評価するか
2022年4月5日	過去最低を更新したドル比率～世界の外貨準備運用～
2022年4月1日	週末版（細る対内証券投資～今後も嫌われそうな日本市場そして円～）
2022年3月30日	日銀とトルコ中銀の類似性～ルーブルにも負ける円～
2022年3月28日	円安のメリット・デメリット～優勝劣敗の徹底～
2022年3月25日	週末版
2022年3月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2022年2月分）
	「貿易黒字の消滅」から「貿易赤字の定着」へ
2022年3月18日	週末版（GDPデフレーターに注目すべき局面～「デフレの原因はインフレ」という理解～）
2022年3月17日	FOMCを終えて～短期決戦型の利上げ。効果は24年以降～
2022年3月15日	円安相場の考え方～「三歩進んで二歩下がる」～
2022年3月14日	3つの円安要因～「成熟した債権国」が終わる時～
2022年3月11日	週末版（ECB政策理事会を終えて～「戦下の正常化」に着手～）
2022年3月9日	経常赤字は新常態なのか？～「債権取り崩し国」へ～
2022年3月8日	賃金上昇が遅れるユーロ圏、「嵐の前の静けさ」か？
2022年3月4日	週末版
2022年3月3日	ロシアのデフォルトはシステミックリスクになるのか？
2022年3月2日	ECB政策理事会プレビュー～安全通貨としてのユーロ～
2022年3月1日	日銀のロシア中銀取引禁止について～保有資産の実態～
2022年2月28日	SWIFT遮断にまつわる論点整理～7つのQ&A～
2022年2月25日	週末版
2022年2月24日	年初来の為替市場総括～円キャリー取引復活の兆候？～
2022年2月22日	孤立する日本株市場～「新しい資本主義」の誤解？～
2022年2月21日	ECB利上げの有無について～非公式政策理事会を前に～
2022年2月18日	週末版（「50年ぶりの円安」が意味するもの～「経済より命」路線の結末～）
2022年2月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2022年1月分）
	円相場の構造変化～変わる基礎収支の姿～
2022年2月16日	ラガルド講演を受けて～認める金融政策の無効性～
2022年2月15日	本邦10～12月期GDPを受けて～依然大きな内外格差～
2022年2月14日	「開始前から終盤」の様相を呈するFRBの正常化プロセス
2022年2月10日	週末版（ウクライナ問題～ドイツの自傷行為は止まらないのか～）
2022年2月8日	為替は金利の代わりに政治へアラームを鳴らすか？
2022年2月7日	米1月雇用統計～労働参加率上昇にも注目すべき～
2022年2月4日	週末版（ECB政策理事会を終えて～利上げは最速7月か？～）
2022年2月2日	沈む円相場の全体感と日本の現状
2022年2月1日	オーバーキル懸念が色濃くなる米国経済
2022年1月28日	週末版
2022年1月27日	FOMC を終えて～いつまで株価を無視できるか～
2022年1月26日	IMF見通し改定について～リスク満載の世界経済～
2022年1月25日	孤立感が強まるドイツ～ショルツ政権の迷走～
2022年1月24日	夜明けは近いのか、遠いのか～鳴かないカナリア～
2022年1月21日	週末版（インフレに変化を強いられそうなECBの政策姿勢～ドイツ10年金利は約3年ぶりにプラス圏へ～）
2022年1月20日	米実質金利上昇とドル相場への影響
2022年1月19日	日銀金融政策決定会合～「悪い円安」をどう処理するか～
2022年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2021年12月分）
	続きそうな「日本回避」～「市場の声」は届くのか～
2022年1月17日	既に漂うオーバーキル懸念～「最後のテーマ」は？～
2022年1月14日	週末版
2022年1月13日	円安と物価高と国民感情の近況について
2022年1月12日	「嵐の前の静けさ」を警告するIMF
2022年1月11日	信じて貰えないECBのハト派姿勢
2022年1月7日	週末版（FOMC議事要旨を受けて～「正常化レースの進捗」≒「為替の進捗」～）
2022年1月5日	欺瞞を晒したEUの天然ガス・原子力グリーン認定
2022年1月4日	2022年、円安・ドル高シナリオの死角は「日銀の正常化」か？
2021年12月28日	2022年の為替概観②～「2つの正常化」と新興国～
2021年12月27日	2022年の為替概観～2つの「正常化」が作る世界観～
2021年12月24日	週末版
2021年12月23日	円相場の近況～5年ぶり値幅、最低の取引量、感染拡大～
2021年12月22日	無視はできない需給面のドル安リスク
2021年12月20日	2021年に浮上した「悪い円安」論を再考する
2021年12月17日	週末版（ECB政策理事会を終えて～「ラガルド・バズーカ」と利上げ見通し～）
2021年12月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2021年11月分）
	FOMCを受けて～今度はインフレが「一時的」であるリスク？～
2021年12月15日	「安い日本」を体現するアパレル生産日本回帰報道
2021年12月13日	41年ぶりの企業物価上昇～圧迫される企業収益～
2021年12月10日	週末版（いきなり外交的試練に直面するドイツ新政権～北京五輪という「踏み絵」～）
2021年12月8日	2022年も「日本回避」がテーマか～首相演説を受けて～
2021年12月7日	過去最大のインフレ率を前にECBはどう動くか
2021年12月6日	弱い雇用統計とFRBの正常化プロセスについて
2021年12月3日	週末版（FRBの政策運営をどう考えるか～本当の正常化プロセスは23年以降に～）
2021年12月2日	変節し始めたECB～減らないPEPP、隠れる本音～
2021年11月29日	アフター・メルケル政権誕生へ～新連立の見どころ～
2021年11月26日	週末版
2021年11月25日	再び浮上する「合意なき離脱」リスク～6年目の混乱～
2021年11月24日	ドル/円、115円台突破を受けて～色濃い日本回避～